

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

ワークショップ実施計画書

制作団体名	特定非営利活動法人 日本音楽集団
公演団体名	特定非営利活動法人 日本音楽集団

内容
<p>『ごんぎつね』で共演する児童生徒代表を対象に『箏体験プログラム《さくらリレー》』を実施し、その後に『ごんのうた』での共演の練習を行います。</p> <p>基本的に4年生以上の児童生徒がワークショップの対象学年です。</p> <p>『箏体験プログラム《さくらリレー》』（クラス単位で実施）は、単に楽器に触れてみるというプログラムではなく、2人1組になったペア同士で協力して「さくら」を演奏しつつ『クラス全体でメロディーをリレーするプログラム』で、ペア同士はもちろんクラス全体の協力も不可欠な《協力要素》も盛り込んだ【参加型学習】として位置付けられる「体験プログラム」です。</p> <p>『ごんのうた』での共演練習は、物語の中に登場する3曲の歌を協力俳優の指導のもと、日本音楽集団の演奏者5名（尺八・三味線・二十絃箏・十七絃箏・打楽器）の伴奏で練習を行います。が、「上手に歌う」ことだけでなく「何を思い・何を感じながら歌うか？（表現するか？）」に重点を置いた共演練習を目指しています。（「お箏体験」を行った児童生徒の代表の皆さんとの共演が基本）</p> <p>本法人では、一人でも多くの児童生徒が箏体験プログラムに参加し、又共演することを意図しており、各校それぞれの状況とご要望に合わせて可能な限り柔軟に対応しています。</p> <p>例えば、単学級の学校の場合などは、箏体験を4～6年生の3学年が行い、共演は5年生だけの場合もあれば全校児童生徒が共演する場合もあり、学校毎にご相談しています。</p>

タイムスケジュール（標準）
<p>1校時目／楽器類の搬入、体験楽器の配置と調絃</p> <p>2～5校時目／楽器体験（※）</p> <p>6校時目／共演のための練習</p> <p>※注記／日本音楽集団（20210419） 事業の実施校毎に代表児童生徒の人数が異なるため、「楽器体験のコマ数」は変動します。最大で4コマ（4クラス）まで対応します。</p>

派遣者数
<p>尺八奏者1名、三味線奏者1名、二十絃奏者1名、十七絃奏者1名、打楽器奏者1名 演奏者5名（日本音楽集団団員）</p> <p>歌指導の協力俳優 1名</p> <p>楽器運搬スタッフ 1名 以上の計7名</p>

学校における事前指導

事前に「《ごんのうた》3曲の楽譜」と「練習用CDR」を各実施校にお送りし、歌の事前練習を行って頂きます。

併せて、教職員用の事前資料として《さくらリレー》の紹介DVDもお送りし、ワークショップで実施される箏体験の内容を具体的に把握して頂いた上で、ワークショップに臨んで頂きます。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	特定非営利活動法人 日本音楽集団
公演団体名	特定非営利活動法人 日本音楽集団

演目
(1) 『宮崎駿アニメ・メドレー』(秋岸寛久編曲／七重奏) 「風の谷のナウシカ」～「君をのせて」(天空の城ラピュタより)～「もののけ姫」 ～「いつも何度でも」(千と千尋の神隠しより)、以上4曲のメドレー作品 『日本の楽器たち』(古典作品) (2) 「六段の調」(箏独奏) (3) 「鹿の遠音」(尺八独奏) (4) 「春の海」(尺八・箏二重奏) (5) 「那須の与一」(琵琶弾き語り・独奏) (6) 「幕間三重」・「獅子狂い五段」(三味線・笛・打楽器) (7) 『子どものための組曲』(篠田大介作曲／七重奏) ～休憩～ (8) 『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽劇～【児童生徒代表と共演】 (作：新美南吉、音楽：川崎絵都夫、作詞：佐藤万里) 公演時間(100分)

派遣者数
笛奏者1名、尺八奏者1名、三味線奏者1名、琵琶奏者1名、二十絃奏者1名、 十七絃奏者1名、打楽器奏者1名、協力俳優1名、楽器運搬スタッフ1名 以上、合計9名を派遣します。

タイムスケジュール(標準)
9：40／楽器類の搬入開始 9：40～10：25／準備出来次第〈第1部〉音楽リハーサル 10：50～12：25／〈第2部〉「ごんぎつね」の共演リハーサル 13：45～15：25／本公演(内休憩10分) 15：30～16：00／楽器類の搬出、退去

実施校への協力依頼人員
(特に必要ありません)

演目解説

【第1部】

『宮崎駿アニメ・メドレー』（秋岸寛久編曲／七重奏）で幕を開け、児童生徒さんたちが良く知るメロディーで日ごろ耳に馴染みの少ない「日本の楽器の音色」に触れてもらい、先ずは児童生徒の皆さんが《それぞれ自分達なりに感じ取ってもらう》よう意図しています。

続く『日本の楽器たち』（古典作品）では、個々の楽器の歴史を通じて「独自の世界」を作り上げてきたそれぞれの楽器を一つ一つ司会者（協力俳優）と演奏者のお話を交えながら紹介していきます。

「個々の楽器の歴史」や「古典作品」の紹介だけでなく、司会者とのやりとりの中で各演奏家が「伝統楽器と出会った契機」や自らが「プロの演奏家を目指した動機」等も紹介し、個々の演奏家が持つ「音楽家としての個人史」に触れてもらうことも盛り込んでいます。

第1部の最後には、本法人所属の作曲家篠田大介が「日本音楽集団からの子ども達へのメッセージ」として作曲した『子どものための組曲』を演奏し、「独自の世界」を持つ日本の楽器が合奏を行うようになった「現代の響・姿」を紹介し、第1部を通じて日本の楽器の現在に至るまでの「歴史と歩み」に触れてもらい、第2部の共演プログラムへとつなげます。

【第2部】

メインプログラムの『ごんぎつね』～語りと合唱と邦楽器で作る音楽劇～（作：新美南吉、音楽：川崎絵都夫、作詞：佐藤万里）で各校の児童生徒代表の皆さんと共演し、それを全校児童生徒の皆さんに鑑賞して頂きます。

児童生徒代表の皆さん達が、国語の授業で学習した『ごんぎつね』が題材となった作品で「演奏家と一緒に音楽朗読劇を作り上げる経験」をし、併せて本公演での発表を通じて演奏家と共に「達成感を共有する」ことを目指しています。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

児童生徒代表の皆さんは、「ワークショップ」で『楽器（お箏）体験』を行い、「本公演」で「ごんぎつね」（作詞：佐藤万里、作曲：川崎絵都夫）の中に登場する3曲の「ごんとうた」を合唱して日本音楽集団と『共演』します。

私共法人では、この「自ら体験した楽器と共演する」ことにポイントを置いています。

ワークショップで『楽器（お箏）体験』という「直接体験」を持った児童生徒代表の皆さんは、それを踏まえて『共演』することで、より多くの「一体感や達成感を演奏者と共有」できることを目指しております。又これと併せ、児童生徒代表の皆さんが「直接体験」を踏まえた能動的な関心を持って鑑賞してくれることも期待しており、「演奏を観察する」域に至るような「より本公演の鑑賞効果を高める」ことを意図しています。

「本公演」において、全校の児童生徒の皆さんが代表のお友達が日本音楽集団との『共演』を鑑賞するに際しては、代表にはならなかった他の児童生徒の皆さんも全員で「共演の間接体験」を共有できるよう、本公演の会場での児童生徒代表の皆さんの着席位置なども工夫しています。

児童生徒とのふれあい

私共法人では、これまでの巡回公演で「給食交流」を推奨し実施して参りました。

「給食交流」は、児童生徒代表のお友達の教室に日本音楽集団のメンバーが分散して加わり、WSや共演の感想を話し合いながら給食を頂くことを通じて、『音楽の場を離れたところでも日本音楽集団メンバーと児童生徒代表のお友達とがコミュニケーションを深める場』として日本音楽集団では位置付け、推奨してきております。

